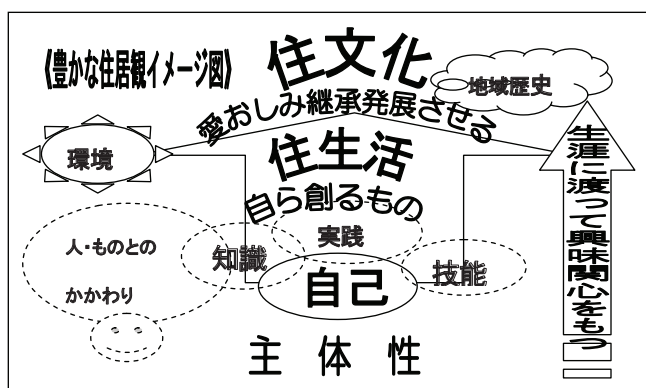


豊かな住居観をはぐくむ学習指導 —町家の「おたがい様の住まい方」から学ぶ—

「よりよく住む」ために、人、もの、環境、地域などのかかわりに触れ「住生活において自分ができること」を考えさせ、実践できる力を身に付けさせるために、かつて城下町であった校区に現存する、独特の町家を活用した。町家には、雪の時期も快適に生活するための「雁木」があり、「誰でも通り抜けられる土間」があり、近道ができた。これらの工夫は、助け合いの心を形にした先人の知恵である。先祖が考えた「おたがい様」の工夫に触れることを通して、郷土に誇りをもたせると共に住まいを文化として愛おしむ心情もはぐくむことを意図した実践である。

1. はじめに

近年、耐震偽装や欠陥住宅など、住生活に関する問題が顕在化している。それらの問題の多くは住宅産業の利益優先に起因しているが、住み手が住まいの問題に関して理解不足、不勉強な面があり、適切な判断ができないことによるものとも言われている。それは、「住まいのことは、専門家に任せるもの」という住み手の思い込みが強く、「住生活は自らが主体的に創っていくことができるものである」という認識が低いのではないかと考え、住生活においても、生徒たちが「主体的な生活者」となるためには「豊かな住居観」をはぐくんでいく必要性を感じ、本実践に取り組んだ。



2. 題材の構想

生徒たちが「豊かな住居観」をはぐくむためには、自らの住生活に興味・関心をもつことがスタートとなる。住まいは、簡単に増減改築できるものではない。ところが「住まい方」という視点で考えると、住まい

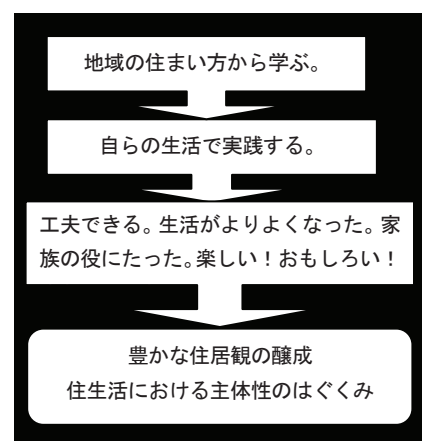
を見直し、住生活を工夫・改善することは可能である。

少しの工夫で自分も、家族も、より安全で快適に住まうことができ、生活をよりよくするために課題解決をさせることは、「住生活は自ら主体的に創るもの」という意識につながる

と考えた。また、習得した知識や技術を実際の生活で活用した実体験や自分の考えを仲間に伝え合う活動を毎時取り入れた。

このように、よりよい工夫の仕方を探求するところまでを指導計画に組み入れることで、自己の成長を実感できるようにした。

校区には、城下町であった地区を含み、独特の町家が現存している。町家には、江戸時代から現代まで受け継がれている軒先の私有地を公共の通路とした「雁木」があり、雪の時期も快適に歩くことができる。また、町家には「通り抜けられる土間」があり、公道として利用することができた。「雁木」や「土間」は、助け合いの心が形になったものである。郷土に、地元民としての誇りを持ち、住まいを文化として愛おしむ心情もはぐくむことを意図し、この地域資源を生かした。



3. 指導の実際と生徒の変容

時数	学習活動と生徒の変容
2	<p>1 住まいのはたらきを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボルネオ島の住生活と比較し、雪国の暮らし方を知る。 ・自分の家の平面図を書き、住まいの機能を考える。 ・平面図に自分の住生活の願いを書く。気づき・発見  <p>マイルームに鍵をつけて欲しい。</p> <p>自分一人だけの部屋が欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の機能や雪国の暮らしの知恵に改めて気づく。 ・自分中心的で他者依存型の住まい方。
3	<p>2 温故知新 町家の住まい方から学ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雁木通りを歩き、町家を見学する。 ・先人の知恵「おたがい様」の住まい方を知る。 ・見学で気がついたことについて仲間と意見交換をし、町家のよさを共有する。気づき・発見  <p>生徒意見 昔は「おたがい様の精神」で、近道のためその家の土間を往来していた。今ではありえないことをやっていた。驚いた。「おたがい様の精神」は自分の生活にも生かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先人の住まい方の知恵、支えあう暮らし方のよさを知る。 ・地元民としての誇り、連帯感。住居を文化としてとらえる。
2	<p>3 教室改善プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の騒音・湿度・CO₂濃度を測定する。 ・教室の問題を知り、具体的な改善方法を考える。 ・仲間と意見交換し、実行案を決める。 ・共有している場について仲間と協力した。問題解決 ・教室でもおたがい様の住まい方が大切だと気づく。  <p>涼しさを演出するために風鈴をつけたらどうだろう。</p> <p>風鈴はうるさく感じる人もいる。吹流しの方がいいと思う。</p> <p>生徒が考えた実行案 換気をこまめにする・机の脇に置いた荷物は危険、ロッカーに入れる・ひもつき袋を自分のロッカーに入れる時、ひもは奥に入れると安全な教室になる。 ・涼しさの演出のため植物を置く、掲示物の色や、はり方を工夫するなど。</p>
2	<p>4 災害は忘れたころにやってくるが、被害は工夫で抑えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震から学んだことを書き出す。 ・牛乳パックハウスの耐震工を試みる。  <ul style="list-style-type: none"> ・耐震工事を仲間と意見交換をする。習得・活用 ・他の災害や家で起こりうる事故について考える共通の教材を用いた。問題解決・探究 <p>すき間に何か入れると強くなると思い、<input checked="" type="checkbox"/>のように棒を入れたが<input type="checkbox"/>の方が耐久性に優れていた。体育館の窓が×の形になっていることや東京タワーも参考にした。</p>
3	<p>5 MYファミリーちょこっと改善プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が家の問題点を考える。 ・「ちょこっと改善」実践計画をたてる。 ・家庭で「ちょこっと改善」を実践する。 <p>各自の生活における個人の問題解決・探究</p> <p>生徒実践 転倒の原因となる電気コードの整理の工夫を考えた。・災害時の非常持ち出し袋とその中身を家族と検討し、改善した。・町家のおたがいさまの住まい方から学び、家族や近所の人だけでなく、家の前を通る人も幸せにするように庭に植物を植え、景観を整えたなど。</p>
1	<p>6 安全に住まうために賢い消費者になろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事から住まいに関する問題点を見つける。 ・ロールプレイ「お隣近所もやっていますよ」を行う。 ・オリジナルロールプレイを考え、演じる。活用・探究 <p>生徒意見 言われるままにつきつぎに契約してしまったのは、知識が無いから自分で判断できないためだ。住まいのことも人任せにしているのはだめだ。</p>
1	<p>7 「おたがい様」の住まい方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住むエコ」や「美しい景観を残すための市民運動」について知る。 ・今後、「自分はどのように住まう」のか、考えをまとめる。活用探究・新たな価値観の獲得 <p>生徒意見 住居を快適にするにはお金をそんなに使わなくても、考えてちょっとした工夫をすればできることが分かった。</p>

4. おわりに

生徒の意識が、学習の前後で大きく変化した。町家見学から多くのことを学びとった生徒たちの感性と、既習概念を揺さぶる教材選定の重要性、実習・実験の位置づけ等、教師としての責任を感じた。「住」の学習は「衣」「家族」「食」「消費」「環境」「地域」と関連させて、いかようにも進めることもでき、教員の工夫次第である。実践的態度の育成のためには小学校での学習を十分ふまえた指導と、折にふれて自己の成長を確かめられる評価等の工夫が必要と感じた。

参考文献・参考Webページなど

- ・独立行政法人国民生活センター ロールプレイ「ご近所もしていますよ」作 中川壮一
- ・神戸市すまいの安心支援センターすまいるネット
//www.smilenet.kobe-jk.or.jp/modules/wordpress/